

こんにちは。暁星高校2年の菅野航生です。僕は2023年9月から2024年3月までの間、スタンフォード大学が日本の高校生向けに行なっているプログラム、“Stanford e-Japan”に参加することができました。今回この場をお借りして、このプログラムの概要とこのプログラムを通して学べたこと、自らの心境の変化などをご紹介しますと思います。

まず、そもそも“Stanford e-Japan”とは、スタンフォード大学の The Stanford Program on International and Cross-Cultural Education (SPICE)(スタンフォード大学国際相互文化教育プログラム)という国際的な、また異文化間の交流を学術的な面から促進することを目的とした機関が実施してくださっている日本在住の高校生を対象とした完全オンラインのプログラムです。また、このプログラムはファーストリテイリングの社長である柳井正さんが創設された柳井正財団に援助していただいているおかげで、費用はかからずに受講することができます。

このプログラムでは、全13回、毎週土曜日に行われる日本全国の受講生30人と現地とを繋いだオンラインのバーチャルクラス内で、日米関係や異文化共生、第二次世界大戦とそれに伴う日系人収容、またシリコンバレーに代表されるような企業や起業家精神、さらには日米両国における教育や宗教、ジェンダー観の違いと比較など、幅広いトピックについて国内外の専門家や大学教授の方々などの講義を全て英語で受けることができました。またその後毎回ディスカッションの時間もあり、様々な問題について講師に質問したり、クラスメイトと意見交換をしたりすることもできました。8週目には、5人ずつほどのグループになり、今の社会問題を一つ取り上げ、その問題点と解決策を提示するグループプレゼンテーションを行い、起業家の穴山為康さんに評価していただく機会もあり、グループのメンバーと協力して発表スライドや台本などを作りました。各授業間には事前課題として、その週扱うトピックについてのリーディング課題や、自分の意見を書き込んだりクラスメイトの意見を見て返信したりすることのできる掲示板もあり、トピックに対する自らの考えを深める大変良い機会でした。プログラムの最後には最終論文として、5ページの日米関係に関する論文を執筆し、学術誌の形式にまとめる課題があり、四苦八苦しながらもなんとか書き上げることができました。

今回、このプログラムに応募しようと思ったきっかけは自分自身英語が得意ということもあり、英語を学ぶのではなく、英語“で”学ぶということ、また日常的に英語を使う環境に身を置く経験がしたかったからです。これは個人的な話ですが、母方にカリフォルニア州に住む日系アメリカ人の親戚がおり、日米関係や日系人、日本人のアメリカでの歴史にとっても興味があったことも理由の一つです。実際に選考を通過しプログラム

を受講できましたが、授業は全て英語で、ディスカッションや掲示板のポストなども全て英語だったので、帰国子女でもなんでもない僕にとって最初は議論についていくので精一杯でした。ただ、だんだん慣れてくるにつれて自分の意見もある程度スラスラと言えるようになり、授業の内容も正確に理解できるようにもなり、読み書きだけでなく英語力は満遍なく鍛えられた実感があります。また、授業の内容としては、真珠湾攻撃についての授業の中で、講師のかたが、日本軍が急襲を仕掛けたとか、戦艦が沈んでアメリカ兵がたくさん亡くなったことばかりがクローズアップされがちだが、元からハワイに住んでいた先住民の方々は自分たちの土地を奪われた上に、彼らが空襲によって受けた甚大な被害というのは取り上げられないし見向きもされないとおっしゃっていたのが特に印象に残っています。自分でも今までそのような視点でこの問題を捉えたことはなかったし、この授業がなかったらおそらくこれからも一生そのように考えることはなかったと思うので、大変貴重な機会でした。他にも、日米の教育システムの違いについての授業では、実際に現地の高校生と zoom を繋いで、カリキュラムや課外活動などについて意見交換する場もあり、根底にある両国の考え方の違いを意識することができ、個人的には将来留学することも考えているので、非常に有意義な時間でした。グループプレゼンテーションでは、自分のグループはファストファッションを取り上げ、大量生産に伴う環境的、また倫理的弊害と、それに対する解決策（AR ゴーグル）について論じました。メンバーそれぞれ多忙で、夜11時からのミーティングなどもあり、非常に大変でしたが、力を合わせて整然とした発表スライドとスピーチ原稿を用意でき、上手く人に訴えかけるには、また主張を効率よく伝えるにはどうしたらよいか、印象付けるために最適な色やフォントは何かなど、これからの将来にも確実に生きる経験をすることができました。メンバーには感謝しています。日米関係について論じる最終論文では、現在ワシントン DC を流れるポトマック川沿いに3000本以上植えられているソメイヨシノの木を初めに1910年代に日本からアメリカへと移植する際に尽力したエリザ・シドモア女史の生涯について取り上げ、日本を訪れた際に向島の桜を見て感動しそれ以降日本の桜を愛した彼女の人生と、日本側の窓口となり、日米友好のシンボルとして桜の木を寄贈するために動いた新渡戸稲造や、当時の東京市長尾崎行雄の功績について様々な文献を参考にしながら書き上げることができました。

今回のこのプログラムを通して、現在の両国間の良好な関係というのは決して一朝一夕に作り上げられたものではないし、多くの方の献身あってこそだということ、また日本からの視点だけでなくアメリカから見た視点、第三国からの視点など学校で学ばないような深い事柄に至るまで、今まで国内で過ごしては気づかなかった視点から物事

を捉える経験ができたことで日本とアメリカでの考え方、価値観の違いにも気づくことができ、改めて自らの意見をきちんと持つことの大切さに気付かされ、様々な事柄に対する興味がより強くなったこと、意欲的で志の高いメンバーの皆と議論することを通して多様な意見や価値観に触れられたことなど、ここでは書ききれないほどいろいろなことを感じ、学ぶことができ、大変貴重な経験になりました。僕はサッカー部に所属しており、また中間テストや期末テスト中もプログラムは続いていて、課題に膨大な時間を割く必要があったため、部活や学業との両立は非常に難しかったです。しかし、その困難さの何倍も有意義なプログラムだったので、参加できてとても楽しく、光栄だったと同時に、誰にでも諸手を挙げてお勧めできるプログラムだと思います。皆さんにもぜひトライしてみてくださいと思いますし、何か質問等あればいつでも相談してきてください！

最後になりますが、このプログラムに応募するにあたり、応募期限ギリギリに図々しいお願いをしたにも関わらず快く推薦状作成を引き受けてくださり、またプログラム中も様々な形で課題や論文などにアドバイスをくださり、協力してくださった佐々木先生、宇田川先生、また、土曜日の授業の際、学校で使用する教室を相談したところ、毎週教室を用意してくださった担任の村上先生、部活を授業で休む際などご配慮くださったサッカー部顧問の吉田先生など、多くの先生方のご協力によって最後まで受講することができました。時に非常に図々しく無理難題をお願いして大変申し訳ありませんでした。そして、本当にありがとうございました！！

Cf.). <https://spice.fsi.stanford.edu/fellowship/stanford-e-japan>

<https://spice.fsi.stanford.edu/>

<https://www.yanaitadashi-foundation.or.jp/about/activities/>